



編集委員が地域の皆さんにインタビュー！



宮川 純さんプロフィール
1978年生まれ。一男二女の父。
生粋の式根島育ち、
みやとら商店の料理長。
式根島観光協会理事。
しきね想島会の発起人かつ団長。
趣味はスケートボード。

スピーカーズのコーナーは、「表紙は語る」でも取材させていただいた、しきね想島会代表で式根島在住の宮川純氏にお話を伺いました。

小久保 以前も足附船客待合所の「みに博物館」を表紙取材しました。想島会の活動で、未活用の公共施設に人の賑わいが宿ったり、月1浜清掃をはじめ、行政だけではできない部分も担ったりしてくれていますよね。活動の原動力は？

宮川 まず「自分たちが楽しい、知りたい」を大切にして、そこから人と繋がったり、アイデアが繋がったりしたら次の何かが形になって、それが自然と島のためになっていったら面白いし、嬉しいと思います。式根島支所と相談した上で、式根島のまい

まい井戸の隣の公園の倒木もできるところから処理していきたいと思ってます。

小久保 本当に頭が下がります。率直に、村議会や議員についてどう思われますか？

菊地 取材などで気にかけてくれて嬉しいです。若手の集まりでも「式根島発の議員って必要だよ」と話題にはなりません。議員とは意見交換というか、その前の情報交換でもいいので、できるといいと思ってます。また会議という形でなくても、何かあるときに来てもらって自然に話ができる、といいなと思ってます。

編集後記

議会だよりのフルカラー化、デザイン刷新が定着しつつある今号ではございますが、相次ぐ台風災害やそれに伴う複数回の議会・委員会審議を経ての刊行となりました。

発行が遅れて非常に心苦しいのですが、その分、9月の議会広報研修で得られた内容を反映してみました。

まず議員が重要を考える『課題』に注目して、そこから興味を持ってもらえるような紙面・分量にしていく。内容は絞っても良い。次に村民の顔と意見が見えるような取り組みをしていくところです。防災を軸に議員の仕事を考え、表紙企画とインタビュー企画を連動させてみました。ご感想をお待ちしております。

〈木村諭史〉

広報編集委員会メンバー

委員長：小久保利佳

副委員長：木村諭史

委員：前田泉

：前田寿夫

：青沼弘